

コシヒカリの播種は4月25日頃から！ 田植えは5月15日を中心に
 ~収量と品質の向上は健苗育成から！~

☆コシヒカリの目標スケジュール

消毒	浸種	播種	田植日	出穂期
4/7	4/8	4/18	5/10	8/1頃
4/15	4/16	4/25	5/15	8/4頃
4/23	4/24	5/2	5/20	8/7頃

育苗日数は20日間以内を目安に



若い苗は、分けつが発生しやすい！
 (適正穂数を確保するため、育苗からしっかり！)

☆育苗のスケジュールと作業内容

作業	温度管理	作業管理のポイント
4/15 ↓ 4/16 ↓ 4/24 ↓ 4/25 ↓ 4/27 ↓ 4/29 ↓ 5/15	比重選 種子消毒 浸種 催芽 播種 出芽 搬出緑化 硬化 田植え	<p>① 比重選で種籾を厳選 ~病気や発芽不揃いをしっかり予防~ ・硫安による発芽障害を防ぐため、比重選後の種籾はすぐに水洗いを行う</p> <p>② 種子消毒を徹底 ・種子消毒は、モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬(温度管理が重要)</p> <p>③ 浸種は、4月8日以降から始める ・水温×日数=120℃を目安に。10~15℃の水温と十分な水量を確保する ・2日に1回は水を交換し、酸素不足を防ぐ 水温が上がり過ぎないように、置き場に注意(低温にも注意!) ・後半は必ず芽の動きを確認し、動きがあれば浸種を終了する</p> <p>④ 芽の長さをこまめにチェック ・均一に催芽するため1日2~3回、袋を反転させる ・均一に播種するために、種籾の水切り(脱水)は十分に行う(籾が手に付かない程度まで陰干しを行う)</p> <p>⑤ 播種量は乾籾で箱当たり120g(催芽籾150g) 厚播きは苗質が悪くなる ①温度が正確か事前に確認 ②育苗器の温度設定を確認</p> <p>⑥ 育苗器の温度をこまめにチェック (サーモスタットの使用前点検は必ず行う!)</p> <p>⑦ 芽の長さが1cmに揃ったら搬出 ・搬出時には、覆土を落ち着かせるため、必ずかん水 ・第1葉が展開したら速やかに被覆資材をはずす ※低温が予想される場合は搬出を見送るか、かん水せずに被覆資材で保温につとめる</p> <p>⑧ かん水は朝にたっぷりを行い、日中は床土の乾きに応じて行う ・田植えの7~10日前からは、昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす</p>

春の土づくり ~ 収量・品質の向上は、まず土づくりから ~

珪酸質資材及び有機物の施用

- ・珪酸には、登熟歩合の向上、割籾防止の効果があります(図1, 2)。耕起前に珪酸質資材を施用しましょう(表1)。
- ・稲体の活力維持のため、発酵ケイフンなどの有機物を施用して地力の維持・向上を図りましょう(表2)。

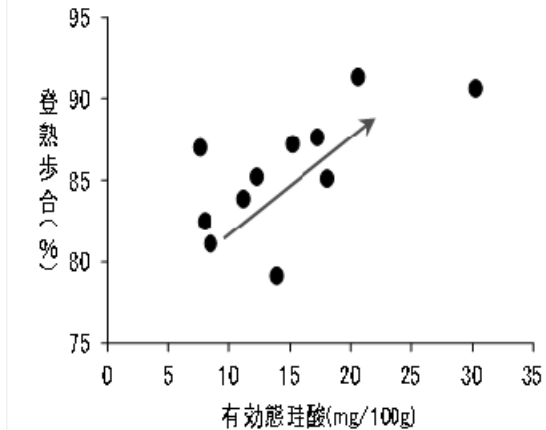


図1 有効態珪酸と登熟歩合の関係
 注) H26 土壤分析結果

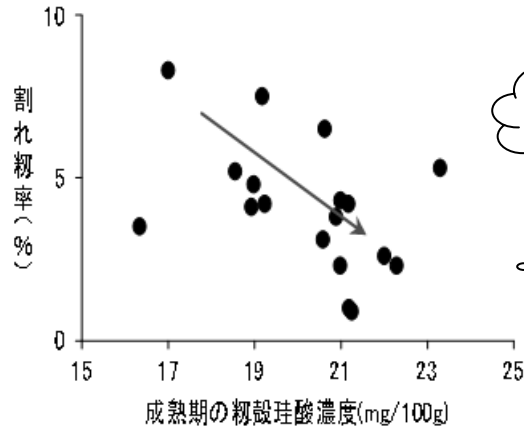


図2 成熟期の籾殻珪酸濃度と 割れ籾率の関係
 注) H23 農研

カメムシ対策にも

表1 主な珪酸質資材施用の目安

資材名	施用量(10a当たり)
大地の祭りS	100kg
シンキョーライトP	60kg
パワーグリーン	60~100kg

表2 堆肥施用の目安(春施用)

堆肥名	施用量(10a当たり)
発酵ケイフン	75~100kg

注) 春施用する場合は、基肥チッソ量を1~2kg/10a程度減肥する。

深耕による作土層の拡大

- ◎作土層を深くすると、根圏が広がり、深く伸びた根が収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質が向上します。
- ◎耕起は、トラクタの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、作土の深さを15cm以上(現状より3cm程度深くする)確保しましょう。

春の農作業安全運動(4/1~5/31) 「声をかけあい たすけあい 農作業事故0へ！」

